

---

## 目次

---

- [01] 事業報告
- 在関西総領事館と連携した防災ワークショップ
  - ボランティアコーディネート研修
  - 大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業
  - ベトナム・インドネシア学生交流事業
- [02] 大阪府外国人情報コーナー
- 永住許可に関して
- [03] OFIX国際交流員レポート
- 進み続けるフィリピン人
- 【折り込み記事】 おおさかグローバルレターVOL4

---

## [01] 事業報告

---

### ■ 在関西総領事館と連携した防災ワークショップ

当財団では近畿の府県・政令都市で構成する近畿地域国際化協会連絡協議会の共催を得て、11月19日(火)に、在関西総領事館関係者、外務省大阪分室、法務省大阪入国管理局、近畿各府県・政令市及び国際交流協会の担当者59名が一堂に会して「在関西総領事館と連携した防災ワークショップ」をマイドームおおさかにて開催しました。

まず、英国総領事館とフィリピン総領事館から「防災における取組」についての講演、そして神戸市から「災害時の外国人住民対応並びに在外公館対応」についての事例報告を行っていただき、最後に意見交換を行いました。

折りしもスーパー台風ハイアンがフィリピンのレイテ島を襲った直後であったため、会場は熱気にあふれる議論が展開されました。

意見交換で寄せられた主な意見をご紹介します。

Q 南海トラフ地震が起きた場合の被害想定を教えてください。また、災害時の緊急速報メールを他言語で受信することはできるのか？(インド総領事館)

A 被害想定に関しては国が発表している。兵庫県に関しては今現在計算中である。緊急速報メールについては、兵庫防災ネットで事前に言語を選択しておく、その言語でのメールを受信できる。(神戸市)

A 被害想定や災害情報は大阪府のホームページに掲載しており、今年度中には次期防災計画を発表する予定である。

また防災ネットのホームページも現在日本語のみなので、多言語化していきたい。(大阪府危機管理室)

Q 日本に暮らす英国人、その他旅行やビジネスでの訪日者の災害時の安否確認はどのように対応すればよいのか。(英国総領事館)

A 東日本大震災を例に挙げれば、各自治体での対応は難しいため、東京の大使館等に自国民の安否に関する照会が取りまとめられ、そこから外務省そして警察に安否確認の照会がなされた。今後は災害の規模にもよるが即急に大阪分室からも情報を発信できるような制度に変えていく検討の余地がある。(外務省 大阪分室)

Q 日本の情報公開法はプライバシー保護の観点から制限が強すぎる。アメリカのように緊急時の安否確認の場合は、こうした制限を撤廃するような制度改革が必要と思う。(アメリカ総領事館)

今回のこうした議論をふまえ、近畿地域国際化協会連絡協議会において、防災ワークショップの進め方等について検討を行っていきたいと思います。

### ■ ボランティアコーディネート研修

当財団では今年度から、外国人支援に関わる担当者間のネットワークの構築や、ボランティアの育成・派遣制度の検討等を目的として、大阪府内市町村及び地域国際交流協会担当者を対象とした『ボランティアコーディネート研修』を実施しています。

10月24日に開催した第1回目の研修には、15名の市町村・協会担当者の方々にご参加いただき、現状における語学ボランティアの研修や登録・派遣制度などの問題点について参加者全員から報告の後、コミュニティ通訳ボランティア-資質に関する面接ガイド-の活用方法を紹介いたしました。

また来年2月に開催を予定している第2回研修では、コミュニティ通訳・翻訳ボランティアの語学スキル評価について、意見交換等をする予定です。  
 今後も当財団では担当者の方々からのご意見や希望等を参考に、府全域での多言語支援体制づくりの推進を目指し、ボランティアコーディネーター研修を実施してまいります。

■ 大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業

今年で21回目を迎える大阪府海外短期建築・芸術研修生招聘事業ではアジアの8カ国から建築・芸術を専門とする8名の研修生を迎え、9月26日からの約1カ月の研修を実施しました。10月23日にはすべてのプログラムを終了し、全員無事帰国し終了いたしました。

当事業は安藤忠雄氏の寄付金と、当事業の趣旨に賛同された企業の協賛金をもとにOFIXが毎年実施しており、アジアの若者に日本の建築や芸術等を学ぶ機会を提供することにより日本文化等に対する理解と関心を深め、母国の建築・芸術の発展に寄与することを目的としています。

(株)大林組、(株)銭高組、大和ハウス工業(株)及び(株)竹中工務店での12日間に渡る企業研修では、最新技術の説明、工事現場視察や設計部でのデザインワークなど各社様々な研修内容のもと、熱心なご指導をいただきました。

安藤忠雄氏への表敬訪問は、研修生にとって一生の思い出となる素晴らしい機会でした。司馬遼太郎記念館等府内安藤氏設計建築物視察及び淡路島夢舞台・本福寺見学では安藤事務所のスタッフの方にご同行頂き、安藤建築について深く学ぶ貴重な経験となりました。

また、専門分野である建築については、「持続可能な地球環境における建築の再建と保存」「デザイナーの責任：自然と人の共生」をテーマにプレゼンテーションを行い、活発な意見交換とアカデミックな討論が行われました。さらに、大阪府立大学及び神戸芸術工科大学の学生との交流事業や、1泊2日のホームステイでは、将来につながる人脈と多くの思い出をつくることができました。

約一カ月間の本事業では多くの方々にご協力いただき、研修生も建築だけでなく人情味あふれる大阪の文化や人に触れ多くを学ぶ機会となりました。

◆ 帰国した研修生に研修についてのEメールインタビューを実施しましたので、代表的な回答をご紹介します。

Q 大阪の印象について教えてください。あなたの街との違いは何ですか？

A 大阪の人々はフレンドリーで、街は清潔で安全だと感じました。  
 A 交通機関はとても便利で、洗練された建築技術や高度に発達した道路網は私の街では見られないものです。

Q 企業研修はどうでしたか？また何を学びましたか？

A プロジェクトをどう進めていくかという一連の流れについて学び、スタッフの方の仕事に対する勤勉さそして責任感には感銘を受けました。  
 A 建築現場視察や講義に加え、ある大学を再デザインするプロジェクトに取り組みました。社内では誰もが熱心にどんなに難解な仕事にも全力で取り組んでおられたのが印象に残っています。

Q 安藤プログラムでの一番の思い出は何ですか？

A 安藤先生にお会いし、世界の建築や生き方についてのお話しが聞けたことです。  
 A 大阪での長期滞在を通し、日本の生活習慣や文化について深く学び、理解することができたことです。  
 A 建築だけでなく、日本の生活を体験できたことです。毎朝目覚めるとまるで日本人の一人として生活しているような気がしました。

Q これからのキャリアプランについて教えてください。

A 今現在大学の研究室で伝統的な漁村住宅の研究をしていますが、将来は教師になり、自分の経験や知識を伝えたいです。  
 A 将来は自身の倫理観やアイデアを活かせる自分の建築事務所を立ち上げたいです。

◆ 研修生一覧

氏名	出身国	研修先企業
ウタミ アディンダ シ	インドネシア	大林組
ピナスティ レトノ	インドネシア	大林組
リラムバンニック カージビット	タイ	大林組
サル克蘭 プリヤンカ	インド	銭高組
ケー シー アピル	ネパール	銭高組
クブクピン グレンダ	フィリピン	大和ハウス工業
カルナナヤケ スランガ	スリランカ	大和ハウス工業
ミヤオ ティン	中国	竹中工務店
ゴジン サラ	イラン	竹中工務店

■ ベトナム・インドネシア学生交流事業

大阪府国際化戦略実行委員会が、昨年度から実施している大阪府国際化戦略アクションプログラム大阪留学プロモーション事業「JAPAN OSAKA 留学&就職フェア」に、大阪府国際交流財団として「ベトナム・インドネシア学生交流事業」を実施し、フェアに参加しました。交流事業に参加した交流生達は、9月21、22日のインドネシア(ジャカルタ)フェア、11月3、4日のベトナム(ホーチミン)フェアに向けて、春から企画、準備を進めてきました。各国のフェアで交流生達は、

大阪の魅力や日本での留学生生活体験談についてプレゼンテーションを行ったほか、大阪の魅力や日本での留学生生活の紹介資料の展示のほかセミナーを実施しました。また留学相談コーナーでは日本への留学を希望する現地の学生からの質問に答えました。

◆ インドネシア（ジャカルタ）フェアに参加して

大阪大学 外国語学部 4年 伊藤 延繁

インドネシア語を専攻する学生としてこの事業に参加できたことを大変光栄に感じています。現地におけるプロモーションでは、インドネシアの学生の熱意や彼らの国民性とも言える明るさを肌で感じる事ができました。同時に、学生の受け入れ先として大阪の魅力を再認識する事ができました。当初は自らも懐疑的ではありましたが、今は大阪とインドネシアの学生の潜在的な相性に疑問はありません。今後も機会があれば、大阪とインドネシアの関係がより深まるよう、自分なりの役割を果たせたらと考えています。

◆ ベトナム（ホーチミン）フェアに参加して

大阪府立大学 大学院 理学系研究科 修士2年 山本 隆也

今回の学生交流事業を通して感じたことがたくさんあります。特に感じたことは、他の人、他国の人と協力・協調しながら一つの仕事を進めていくことの難しさと面白さです。交流生は数か月間、今回の交流事業の資料作成などの準備を進めてきました。その過程において、互いに連絡を取り合ったり、作業を分担することが時に困難なこともありましたが、全員でアイデアを出し合っ、一つのものを作り上げる作業は創造的でとても面白いものでもありました。

大阪府立大学 工学部 電気情報システム工学科 博士3年 レ バ ルアン

私は、昔からベトナムと日本をつなぐ架け橋になりたいと思っていました。今回、それを叶える素晴らしい機会を得ることができました。ベトナムでのフェアの間、関係者のご協力を得て、山本さんと私は円滑にフェアの活動ができました。今回のフェアで大阪の人々や生活についてベトナムの学生に初めて紹介しました。多くの学生が、大阪で研究や仕事がしたいと考えている事を知り、私は感嘆しました。そういった学生に対してとても有益な情報を発信できたと感じました。

---

【02】大阪府外国人情報コーナー

■ 永住許可に関して

大阪府外国人情報コーナーには日本での永住を希望される外国人の方から、「永住許可」の申請に関するご相談が多く寄せられます。永住許可を望まれる理由や背景は様々ですが、この許可が認められると、在留資格を更新しなくても日本に継続して住むことができだけでなく、日本での活動に制限がなくなります。また、身分が安定するために商取引や金融機関からの融資を受ける際も信頼が得やすくなります。永住許可が認められるための要件が入国管理局のホームページに「永住許可に関するガイドライン」として公開されています。その中で、「居住要件」として原則10年の在留が求められていますが、次のような特例もあります。1) 日本人、永住者及び特別永住者の配偶者や実子等の場合、2) 「定住者」の場合、3) 難民の認定を受けている場合、4) 日本の国に貢献があると認められる場合、このような場合は一定の要件が合致すると10年の継続した在留歴がなくても許可されることがあります。

【大阪府外国人情報コーナー】

対応時間：9時から5時30分（月曜から金曜）

相談直通電話：06-6941-2297

対応言語：英語、韓国・朝鮮語、中国語、ポルトガル語、  
スペイン語、タイ語、フィリピン語、  
ベトナム語、日本語

---

【03】OFIX国際交流員レポート

■ 進み続けるフィリピン人

皆さん、こんにちは。OFIX国際交流員のアルビンです。皆さんはお元気でしょうか。最近寒くなって来ているので、風邪をひかないよう気をつけて下さい。



★★

おおさかグローバル塾は、今年で2年目を迎えました。今年は4月21日に英国、米国両コースの入塾式を合同で開催し、12月までの9カ月間、短期留学準備、短期留学、長期留学準備の3つのフェーズに分け、英語によるコミュニケーションやプレゼンテーション技術からTOEFL、IELTSの語学試験対策まで、留学に必要な様々なスキルの学習と実践に生徒たちは励んでいます。とりわけ、8月に英国、米国でそれぞれ2週間滞在する短期留学では、大学での授業、企業訪問、ボランティア体験等、実際の留学さながらのプログラムを体験し、将来の進路をポジティブに考えるような大きな刺激を受けて帰国しました。今回は、今年のグローバル塾短期留学の様子をご紹介します。

#### 【米国留学コース】

米国留学コースは、8月1日から14日まで、サンフランシスコを中心に滞在し、4つの大学訪問と、数多くのプログラムに参加しました。

まず最初に訪れたのは、全米屈指の名門校として知られるスタンフォード大学です。敷地内のメモリアル・チャーチなどを見学した後、工学部の研究棟を訪問し、教授や学生がどのように研究を進めているのか見学しました。

次に、カリフォルニア州クパチーノ市にある州立De Anza Collegeを訪問しました。同大学は、コミュニティーカレッジでは全米トップ5に入る優れた大学で、カリフォルニア大学及びカリフォルニア州立大学への編入生の数は毎年全米一、二を争っています。今回の訪問では、生徒のために12人の学生がアテンドしてくれました。コミュニティーカレッジは、授業料が年間50万円以下と負担が少ないことが魅力です。費用面でアメリカ留学を躊躇するという事も聞きますが、今回の見学で別の留学方法があることを知り、米国への進学を決意するきっかけとなる生徒もいました。

続いて、昨年に引き続きサンフランシスコ州立大学を訪れ、3日間に渡り生徒向けに用意された英語学習授業や専門講義を受講しました。休憩時間には、希望する学部を自主的に見学したり、教授に話を聞きに行ったりする生徒もいました。同大学での講義を通し、留学に対するビジョンがより具体的なものとなったようです。

最後に訪れたカリフォルニア大学バークレー校は、ハーバード大学やスタンフォード大学などと並ぶ世界屈指の名門校として知られています。生徒たちの誰もが知っている米国トップ校には、学ぶための全てが揃っており、ここで学んでみたいという気持ちが大きく高まり早速、実際に学んでみたい学部のお話を訪れ、話を聞く行動的な生徒もいました。現地滞在中は、ボランティアワークにも挑戦しました。

1つ目は、サンフランシスコのサルベーションアーミー（救世軍）のボランティア活動です。貧困により学校を途中でやめることを余儀なくされた子どもたちに、新学期から学校へ復帰してもらうことを目的に、かばんやノートなどの学用品を配布するもので、多くのアマチュアメントが用意されています。このイベントには約1700名が来場し、生徒たちは、ゆかたで子どもたちを迎えるなど工夫を凝らしていましたが、喜ぶ子どもたちの姿を見て、ボランティアのやりがいを感じていました。このほか、プレシディオ国立公園の環境保全のため、侵入植物の除去や植物の移植など、現地の職員の方にお話を伺いながら、日本ではなかなか経験することのできない社会におけるボランティアの役割の重要性も学ぶことができました。

このほか、シリコンバレーの代表企業であるYahoo、twitter、Googleの本社を訪問し、そこで働く日本人社員と意見交換をしました。恵まれた職場環境で自由に仕事に取り組む風景にあこがれを覚えつつも、しっかりと成果を追及していくという米国流のスタイルを肌で感じていました。この企業訪問では、海外の仕事現場を見聞きし、海外で学び様々な分野で活躍する姿を重ね合わせるまたとないチャンスとなったようです。

サンフランシスコの夏は日本と違い肌寒かったですが、体調を大きく崩す生徒もなく、日本に帰国することができました。毎日ぎっしりと詰まったスケジュールでしたが、生徒たちは全てのプログラムにおいて、明確に目的を持って積極的に行動することができました。米国で過ごした14日間は、生徒たちにとって大きな自信につながったことでしょう。

#### 【英国留学コース】

今年の英国留学コースは、8月12日から25日までの14日間の日程でそれぞれに特徴のある3つの大学で寮生活をしながら、グローバル塾向けに用意されたプログラムに参加しました。

最初に訪れたのは、ロンドン西郊トウイックナムにある17世紀からの歴史を有するセントメリーズ大学です。ここでは、英国留学のオリエンテーションのほか、英国の法や政治システムの講義、体を動かしながら集中力や洞察力、表現力を養うドラマスタディの授業を受けました。また、英国在住の日本人による講演も行われ、かつてソニーのヨーロッパ統括を務められた鶴見道昭氏からは、どんどん海外に出ているんなことに挑戦することが大切だといったエールが送られました。海外で実際に活躍している「先輩」から直接聞く話に、これから留学をしようと考えている生徒たちから「とても感銘を受けた」といった感想が聞かれるなど、大いに勇気づけられた様子でした。

2か所目に訪問したリーズ大学は、ロンドンから約350キロ離れ、イングランド北部最大の都市リーズの中心部に広大なキャンパスを構えるイギリスでも人気の高い大学です。ここでは、ヨークシャー地方ゆかりのブロンテ姉妹に関する講義があり、大学の図書館に所蔵されるブロンテ直筆の原書や書簡に直接触れるという貴重な体験をしたのち、実際にブロンテ姉妹が暮らしたハワース村に行き、現存する彼女たちの住まいを見学しました。また、18世紀の階級社会を学ぶため、生徒たちがロールプレイ方式で当時の生活や風習を学んだのち、リーズ郊外にある貴族の大邸宅「カントリー・ハウス」も見学しました。単に講義で聞くだけでなく、実際に物に触れ、歩き、自分の目で見ることで、学習対象をより具体的なものとして捉えることができ、生徒たちの興味や関心がとても高まっている様子でした。このほか、機械工学と実験の講義や国際ビジネスでも、単に一つの答えを求めめるのではなく、答えを出す過程でなぜそう考えたのか、しっかりと説明することの大切さを教わり、これまで受けた授業との違いを実感していました。

最後に訪れたのは、英国東部の都市ノリッチにあるイーストアングリア大学です。この大学は、設立されてからまだ50年という比較的新しい大学ですが、多くの分野でハイレベルの研究を行っており、とりわけ気候変動に関しては世界トップクラスにあります。また、学生満足度が非常に高く、2013年には全英第1位となっています。ここでもグループで議論しながら答えをまとめていくという形式でのメディア、行動心理学、英国留学における学習スキルといった講義のほか、英国の大学で学ぶ意義についてのオリエンテーションも用意されていました。さらに、同大学が設置する視覚芸術センターでの所蔵美術品の見学や大学内施設でのスポーツ等、充実した施設を体感するプログラムにも参加でき、学ぶことが楽しくなるような英国大学の魅力を十分に感じ取ることができました。

短期留学を通じて、現地で用意されたプログラムはすべて英語により行われましたが、途中、体調不良等で不参加となる生徒が一人も出ず、全員が共通の経験を得て大阪に帰ることができました。生徒たちがそれぞれに英語や留学に関して自分なりの考えを持ち帰ることができたことは、英国留学コースにとって大きな成果ともいえました。

今年も無事に短期留学は終了しました。英国、米国滞在中は、グローバル塾生の授業に対する意識の高さや積極的な活動ぶりが現地の関係者に高く評価され、まさに大阪の高校生の代表と呼ぶにふさわしい活動ぶりとなりました。今後、長期留学準備講座でさらにスキルを積み、海外留学に挑戦する生徒が一人でも多くであることを期待したいです。